NIE実践報告

1．タイトル **約４０年前の新聞を題材にした授業実践**

2．学校名

**函館市立五稜中学校**

3．実践者名（代表者名）

**川端　裕介**

4．学年

**第３学年**

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

**社会科・公民的分野　　生徒８９名**

6．単元（本時の学習課題）名

**人権と共生社会（社会の発展と新しい人権）**

7．目標(狙い)

**環境権を求める運動から，新しい権利が社会に定着する過程について資料をもとに考える。**
**新聞記事から，情報を正確に収集する。**

8．評価の視点

**新聞などの資料を活用し，テーマを決め，情報を収集して内容をまとめようとしている。**
**環境権を求める運動から，新しい権利が社会に定着する過程について考察しようとしている。**

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

**単元「人権と共生社会」（８時間扱い）の７時間目で，新しい人権が，今日の社会で主張されるようになった理由に気づくとともに，環境権を求める運動から，新しい権利が社会に定着する過程について考える。**

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

**「社会の発展と新しい人権」（２時間扱い）の２時間目で，前時で学習した「新しい人権」が提唱されるようになった社会背景を，当時の新聞を用いて学習した。題材として扱ったのは，１９７２年の北海道伊達市における火力発電所建設差し止め訴訟である。新聞の読み取りから訴訟にいたった背景と，「環境権」の侵害を根拠にしている点に気付かせた。**
**そして，憲法の第何条のどういう内容を根拠に「環境権」が主張されたのかをグループで考え，発表させた。なお，グループは４人の小グループで編成し，各グループに小型のホワイトボードを配布し，活発なグループ活動がおこなわれるように配慮した。**
**学習のまとめとして，生存権や幸福追求権を根拠に，公害の防止の目的で主張されはじめた環境権は，概念が拡大し，日照権や景観権も提唱されていることに触れた。その際の題材として，函館市の西部地区に建てられた「自由の女神像」とその撤去をめぐる問題を取り上げた。**

11．児童・生徒の反応、感想・意見

**地域のできごと題材にしたため，意欲的に学習をしている生徒が多かった。グループ活動では，憲法の条文を参考にしながら，環境権につながる内容を一生懸命に探し，グループで意見をまとめるなど活発な姿がみられた。**

12．成果と課題

**人権に関する学習を実感をもってとらえさせるには，具体的な事例の提示が必要である。その意味で，火力発電所建設差し止め訴訟と自由の女神像設置問題という地域の題材を設定したことは有意義であった。**
**また，過去の新聞を読み取る活動は表現などの難しさがあったが，新聞広告の内容にも関心をもった生徒が多いなど，教材として魅力があることもわかった。**